



39.9%

リフォームの見積もりの相場 ・適正価格がわからない

一般社団法人住宅リフォーム推進協議会
『住宅リフォーム潜在需要者の意識と行動に関する調査』
(2018年)

マイホームを買うとき、日本では欧米に比べ新築志向が強いようだが、最近では中古のマンションなどを買って自分好みにリフォームする若い世代が増えていると聞く。また、定年を機にリフォームする人は多い。では、リフォームに関する情報を、皆さん、どのように集めているのだろうか。

一般社団法人住宅リフォーム推進協議会が2018年に実施した『住宅リフォーム潜在需要者の意識と行動に関する調査』によると、情報の入手先として「インターネット」「チラシや広告誌」「企業のショールーム」が上位を占めるものの、戸建てについては「いつも工事を依頼している業者」「友人・知人」「営業マン」など、人を通じた情報収集の割合も高い。その他の入手先として、「カタログ」「設計士・インテリアコーディネーター」「自治体等の公的機関相談窓口」「セミナー・講習会」が挙げられている。

リフォームする際の不安や心配事については、「見積もりの相場・適正価格がわからない」が39.9%で最も多く、「施工が適正に行われるか」33.1%、「業者選び、手続きが面倒そう」26.7%、「いろんな業者の特徴を比較しにくい」23.8%と続く。

価格相場がわかりやすい新築に対し、リフォームは現在の住まいの状態によって価格が変わってくることもあり、相場がわかりにくい。新築のように決まった工事ではないため、施工業者の技術の差が出てくることもあるだろう。そう考えると、事前の情報収集はしっかりしておきたい。

11,744件

リフォームに関する 相談件数

公益財団法人住宅リフォーム・紛争処理支援センター
『住宅相談統計年報2019』
(2018年度の住宅相談と紛争処理の集計・分析)

コロナ禍のステイホームにより、住まいに対する意識が高まったり、テレワークが普及したことで、リフォームを考えた人は少なくないだろう。とはいえ、思い通りのリフォームで大満足というのは、そう簡単ではないのかもしれない。

「住まいるダイヤル」を運営する公益財団法人住宅リフォーム・紛争処理支援センターの『住宅相談統計年報2019』によると、2018年度に寄せられた住宅に関する電話相談32,253件のうち、リフォームに関する相談は11,744件で4割近くを占めていた。相談内容として最も多いのは「単価や合計金額が適正か」で、以下、「工事内容や工事項目は適切か」「事業者の選定はどのようにすればよいか」「事業者の信頼性について」と続く。

「住まいるダイヤル」では、契約前の不安を解決すべく相談員による「リフォーム見積チェックサービス」を無料でやっている。電話をかけた上で、見積書を郵送すると、後日、相談員が電話でアドバイスをしてくれるというサービスだ。「住まいるダイヤル」のホームページでは、リフォームの見積書を自分でチェックする際のポイントやよくある相談事例も掲載されている (<https://www.chord.or.jp/index.html>)。さらに、同財団ではリフォーム支援ネット「リフォネット」も運営している (<http://www.refonet.jp/index.php>)。リフォームの支援制度や事業者を選ぶコツなども紹介されているので、リフォームする際には、積極的に活用したいものだ。

(執筆／ライター 更田 沙良)